

- 問1 滋賀県の琵琶湖ではニゴロブナやワカサギ、島根県の宍道湖ではシジミといった水産資源を確保するため、稚魚や稚貝を湖へ放流する取り組みが行われています。このような「育てる漁業」が推進される背景として最も適切な説明はどれですか。（2023年 滋賀県公立入試 類似）
1. 外国からの安価な輸入水産物に対抗するため、バイオテクノロジーを用いて短期間で成長する新種のみを育てるため
 2. 生け簀の中で餌を与えて成魚になるまで管理し、出荷の時期や量を完全にコントロールするため
 3. 自然の生態系を利用しながら、減少した水産資源を回復させ、持続的な漁獲を可能にするため
 4. 大型の漁船を使って遠くの公海まで進出し、短期間で大量の水産物を確保するため
- 問2 日本の主要な工業地帯を比較した統計において、京浜工業地帯が他の地域と比較して「出荷額」の構成や背景にどのような特徴を持っているか、正しく述べているものはどれですか。（2020年 沖縄県公立入試 類似）
1. 巨大な消費地である東京を背後に持つため、情報の鮮度が重要な出版・印刷業などの都市型工業の割合が高い。
 2. 原材料を輸入して製品を輸出する加工貿易に特化しており、現在も日本最大の工業出荷額を維持し続けている。
 3. 北九州地方の石炭資源と結びついて発展したため、鉄鋼業をはじめとする基礎素材産業の出荷額が突出している。
 4. 広大な平野を利用して大規模な自動車工場が建設され、機械工業の出荷額が全体の8割を超えている。
- 問3 日本の資源供給に関する1980年から2014年までの統計資料によると、石炭と石油の供給体制には大きな変化が見られます。このうち、1990年から2000年における石油（原油）の状況として適切な記述はどれですか。（2017年 茨城県公立入試 類似）
1. 原油の輸入量は1980年比で2倍に増やすことで、石炭に代わる火力発電の主役として原油が再評価された。
 2. 国内の主要な油田での生産が軌道に乗って自給率が向上したため、原油の輸入量を大幅に削減することに成功した。
 3. 原油の輸入量は増大し続けたが、石油化学工業での利用が主となったため、火力発電での燃料消費量は変化しなかった。
 4. 火力発電における燃料としての原油消費が抑えられ、供給面では生産量と輸入量がともに減少した。
- 問4 1955年時点と2015年時点の都道府県別人口増加率を比較すると、初期は全国的に高い増加率を示していましたが、近年は多くの地域で増加率がマイナス（人口減少）に転じています。このような人口動態の変化の背景にある、現代日本の課題として最も適切な説明はどれですか。（2023年 香川県公立入試 類似）
1. 東京一極集中が解消されたことで、地方から大都市への人口移動が止まったこと
 2. 出生率が低下し、死亡者数が出生者数を上回る少子高齢化が進行したこと
 3. 全国の自治体で出生率が急上昇し、人口爆発への対策が必要になったこと
 4. 高度経済成長期の技術革新により、すべての都道府県で過疎化の問題が解決したこと
- 問5 各国の貿易品目の構成割合を調べると、南アメリカのブラジルやオセアニアのオーストラリアでは共通の鉱産資源が輸出の上位にあり、北アメリカのカナダや東南アジアのマレーシアでは共通の工業製品が上位を占めています。これらの国々の輸出傾向について正しく説明しているものはどれですか。（2021年 宮崎県公立入試 類似）
1. ブラジルとオーストラリアは石炭の割合が高く、カナダとマレーシアは木材の割合が高い。
 2. ブラジルとオーストラリアは小麦の割合が高く、カナダとマレーシアは繊維製品の割合が高い。
 3. ブラジルとオーストラリアは石油の割合が高く、カナダとマレーシアは食料品の割合が高い。
 4. ブラジルとオーストラリアは鉄鉱石の割合が高く、カナダとマレーシアは機械類の割合が高い。
- 問6 日本の主要な工業地帯・地域の中で、年間の工業出荷額が最も大きく、その内訳において自動車などの輸送用機械が占める割合が約4割を超えている工業地帯を選びなさい。（2017年 沖縄県公立入試 類似）
1. 北九州工業地帯
 2. 中京工業地帯
 3. 阪神工業地帯
 4. 京浜工業地帯
- 問7 高知県で盛んに行われているナスの栽培において、冬から春にかけての出荷時期を早める工夫が行われている理由として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 山形県公立入試 類似）
1. 夏の台風被害を避けるために、すべての収穫を春までに終わらせる必要があるため
 2. 輸入品との価格競争に勝つために、生産コストを極限まで抑える必要があるため
 3. 他の地域からの出荷が少ない時期に販売することで、高い価格で取引するため
 4. 連作障害を防ぐために、特定の時期に集中して土地を休ませる必要があるため
- 問8 自然環境や地域の伝統文化を壊すことなく、それらを観光の対象として活用することで、地域の持続可能な発展を目指す旅行のあり方を何と呼びますか。（2026年 山口県公立入試 類似）
1. アグリツーリズム
 2. エコツーリズム
 3. オーバーツーリズム
 4. グリーンツーリズム
- 問9 日本の国内貨物輸送の分担率（2020年度）は、自動車が55.3%と過半数を占める一方で、船舶は39.9%、鉄道は4.8%にとどまっています。地球温暖化対策の一環として、この輸送分担の構成を変化させる「モーダルシフト」が推進される背景として、最も適切な理由を説明したものはどれですか。（2023年 岡山県公立入試 類似）
1. 鉄道や船舶は、自動車に比べて一度に運べる荷物の量が限られているが、目的地まで直接届けことが可能で利便性が高いため
 2. 日本の地形は山地が多く道路網の維持が困難であるため、古くから発達している鉄道網や水運を主役に据え直す必要があるため
 3. 鉄道や船舶は、自動車に比べて輸送量あたりの二酸化炭素排出量が圧倒的に少なく、環境への負荷を軽減できるため
 4. 鉄道や船舶による輸送は、自動車による輸送に比べて人件費や燃料費が高くなるが、二酸化炭素を一切排出しないため
- 問10 日本では持続可能な社会の形成に向け、下水処理の過程で生じる下水汚泥に含まれる窒素やリンを加工し、農作物の肥料として再利用する取り組みが進められています。このような取り組みが持つ主な意義として、最も適当なものを1つ選びなさい。（2022年 宮崎県公立入試 類似）
1. 廃棄物を資源として有効利用し、資源の循環を図ることができる。
 2. すべての農作物の輸入を停止し、食料自給率を極めて高くできる。
 3. 化学肥料を完全に代替し、化学肥料の製造を全面的に停止できる。
 4. 農業経営における生産コストを劇的に削減し、農家を支援できる。
- 問11 ある工業地域の港湾における輸入品目の内訳をみると、石油が約59%、液化ガスが約22%と、エネルギー資源や原料が大部分を占めています。このような輸入の傾向と密接に関わっている、この工業地域で最も盛んな工業の種類を次の中から選びなさい。（2017年 富山県公立入試 類似）
1. 繊維工業
 2. 機械工業
 3. 化学工業
 4. 金属工業
- 問12 2017年の統計において、愛知県、兵庫県、千葉県、広島県が製造品出荷額等の上位を占めている工業の種類について、その立地的な特徴を説明したものとして正しいものを選びなさい。（2020年 香川県公立入試 類似）
1. 高速道路のインターチェンジに近い、内陸部の工業団地に工場が集まっている
 2. 太平洋ベルト沿いの臨海部に、大規模な工場が集中している
 3. シリコンロードと呼ばれる地域を中心に、豊富な水が得られる内陸部に立地している
 4. 日本海沿岸の地域に、冬の積雪を利用した発電施設と隣接して立地している